



里地里山保全利活用専門部会
第1回専門部会

平成27年7月17日（金）



平成27年度 農と環境を活かしたまちづくり

里地里山保全利活用専門部会 第1回専門部会

1. 「農と環境を活かしたまちづくり」の基本的事項 .. p3
2. 平成26年度の試行的取り組み事項（全体） p12
3. 平成26年度の試行的取り組み事項（専門部会） .. p 21
4. 実施計画の作成に向けた今年度の取り組み p30
5. 今後の予定 p38

1. 「農と環境を活かしたまちづくり」の基本的事項

1-1. はじめに

1-2. 対象地

1-3. 地域資源

1-4. 地域が抱える主な課題

1-5. まちづくりの目標

1-6. まちづくりの推進体制

1-7. 実施方針

1-8. まちづくりの基本的な進め方

1-1. はじめに

黒川地区 農と環境を活かしたまちづくり とは

黒川地区の豊かな緑と農地が残された里地里山の面影を残す良好な環境を舞台に、黒川地区を支える様々な担い手が連携し、多様な取り組みや交流を通して、地域の課題を解決しながら、持続的な環境の保全や地域の活性化につなげていく試みです。

- 平成26年度では、農と環境を活かしたまちづくりの方向性、道筋、具体的な取り組み等について、基本計画としてとりまとめました。
- 各関係者が共有できる実施計画を作成し、本格的な活動につなげていくため、今年度は、様々な取り組みを具体的に試行しながら、評価を行い、課題解決の糸口やまちづくりの道筋を見定めていきます。

1-2. 対象地



1-3. 地域資源

農業資源



豊かな農地



良質な地元農産物



セレサモス



体験農園・観光農園



農業情報センター



農作物の活用（料理教室）

環境資源



里地里山景観



特別緑地保全地区



散策路



豊かな動植物



汁守神社



黒川青少年野外活動センター

黒川地区の良好な里地里山の環境・景観を支える **人的資源**

農業者

保安全管理団体

大学

ボランティア

市民

1-4. 地域が抱える主な課題

農が抱える課題

- 都市農地の保全
- 農家・農業後継者の減少
- 地元農産物の魅力づくりや付加価値の向上
- 来訪者等のマナー向上

etc.

緑が抱える課題

- 里地里山環境の持続的な保全・活用と担い手の確保
- 生物多様性の保全、環境学習環境の確保
- 農業施策と緑地保全施策の連携

etc.

地域が抱える課題

- 地域の活性化と増加する来訪者への対応
- 農業者、地域住民、市民ボランティア、大学、周辺企業、市民等との積極的な連携

etc.

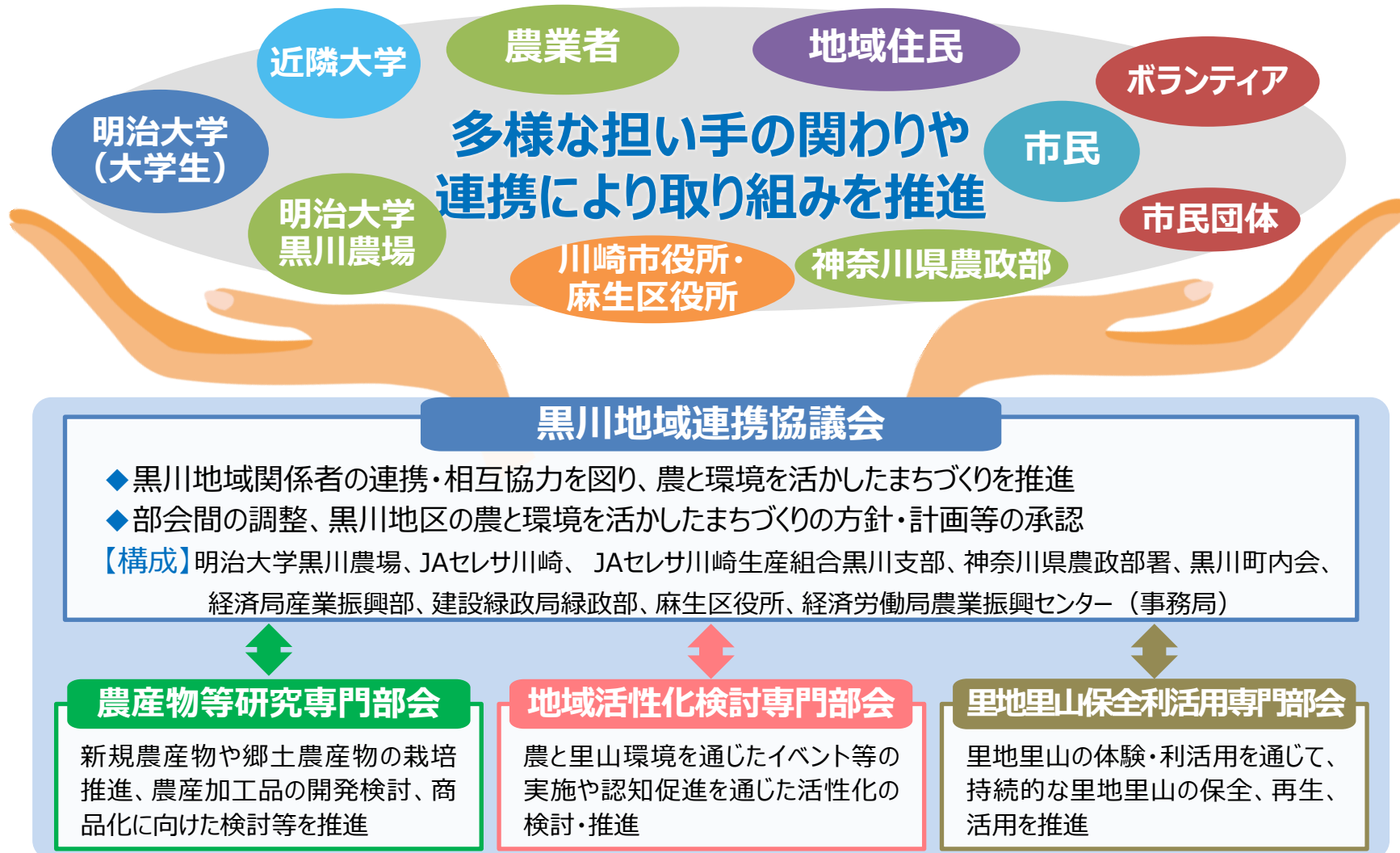


地域課題を解決しつつ、地域の交流・活性化、持続可能な環境保全へ

1-5. まちづくりの目標



1-6. まちづくりの推進体制



1-7. 実施方針

実施方針

地元農産物の販売促進と
加工品の開発

農や里地里山を体感する
イベントの実施・PR

里山の保全管理や活用の
推進

実施体制と役割

農産物等研究専門部会

農畜産物、林産物及び加工品の栽培や販売などにおける課題を整理し、地域の活性化につながる農産物等の調査・研究を行う。

- ①新規農産物や郷土作物の栽培推進
- ②農産加工品の検討開発
- ③農産物等のイベント活用やPRの推進

地域活性化検討専門部会

農や緑、環境を通じた地域の活性化や地産地消の推進につながるイベント等の実施や必要な施設等の検討を行う。

- ①農と里山の認知促進
- ②農と里山の体感
- ③地域資源の発見・創造・育成

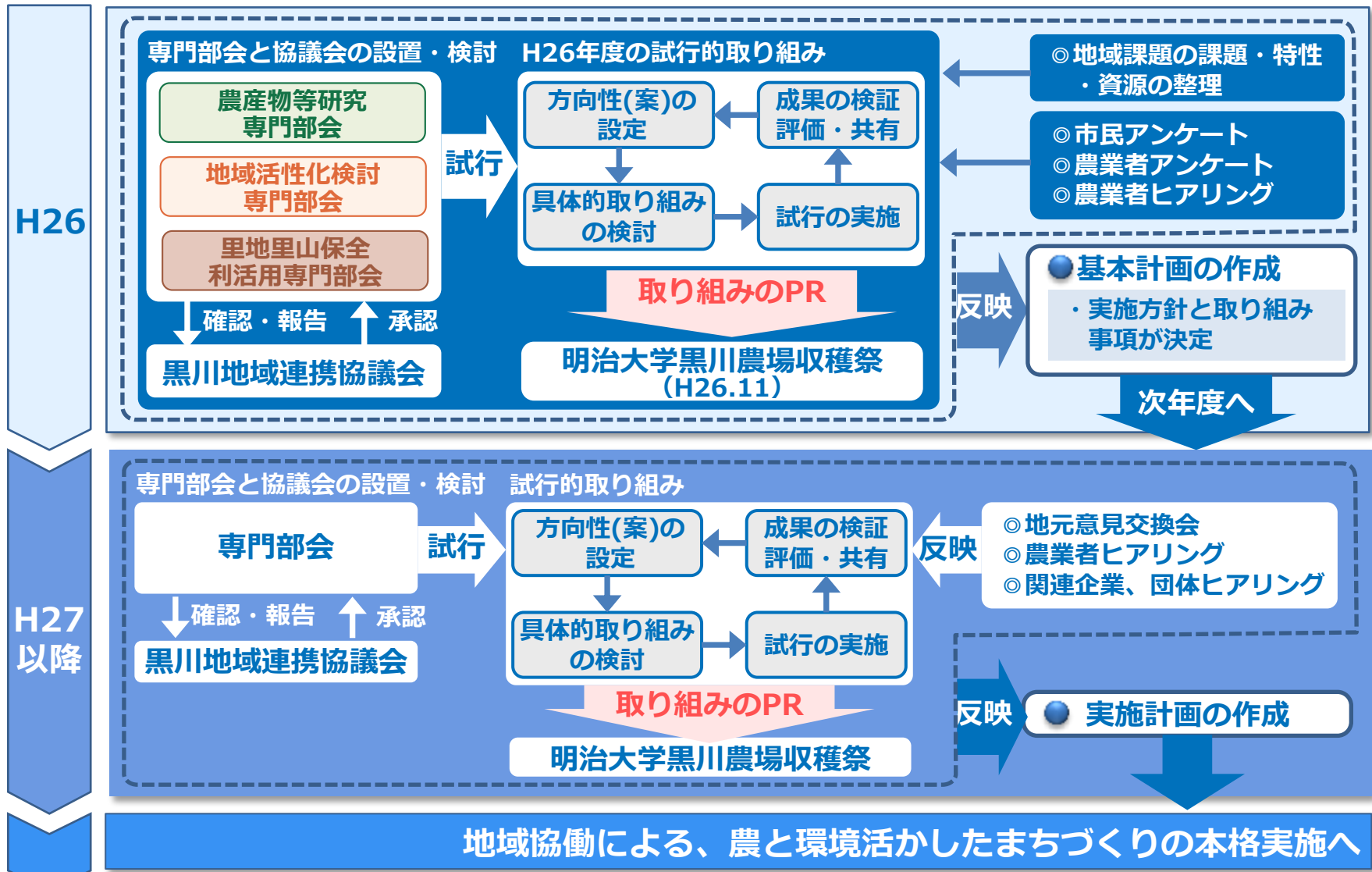
里地里山保全利活用専門部会

多摩丘陵の里地里山の地域的価値を見出し、里地里山の保全、再生、活用を目指す。

- ①里地里山の体験・利活用
- ②里地里山の保全管理

1 「農と環境を活かしたまちづくり」の基本的事項

1-8. まちづくりの基本的な進め方



2. 平成26年度の試行的取り組み事項 (全体)

2-1. 平成26年度の主な取り組み事項

2-2. 「農と環境を活かしたまちづくり」基本計画

2-3. 「農と環境を活かしたまちづくり」実施方針

2-1. 平成26年度の主な取り組み事項

（1）推進体制の構築

（2）基礎的情報（現状と課題）の共有

（参考1） 黒川地区の基本情報MAPの作成

（3）関係者への理解の推進

（参考2） 農と環境の情報ホームページ作成

（参考3） 地元説明会と意見交換会の実施

（参考4） 明治大学黒川農場収穫祭でのまちづくりPR

・ 市民ニーズ把握のためのアンケートの実施

（4）基本計画・実施方針の作成

(参考1) 黒川地区の基本情報MAPの作成

多様な情報（地域の魅力、地域の活動、主な生産物、問題点、地域の催し等）を抽出し、
地図上に情報を集約化

● 流れ

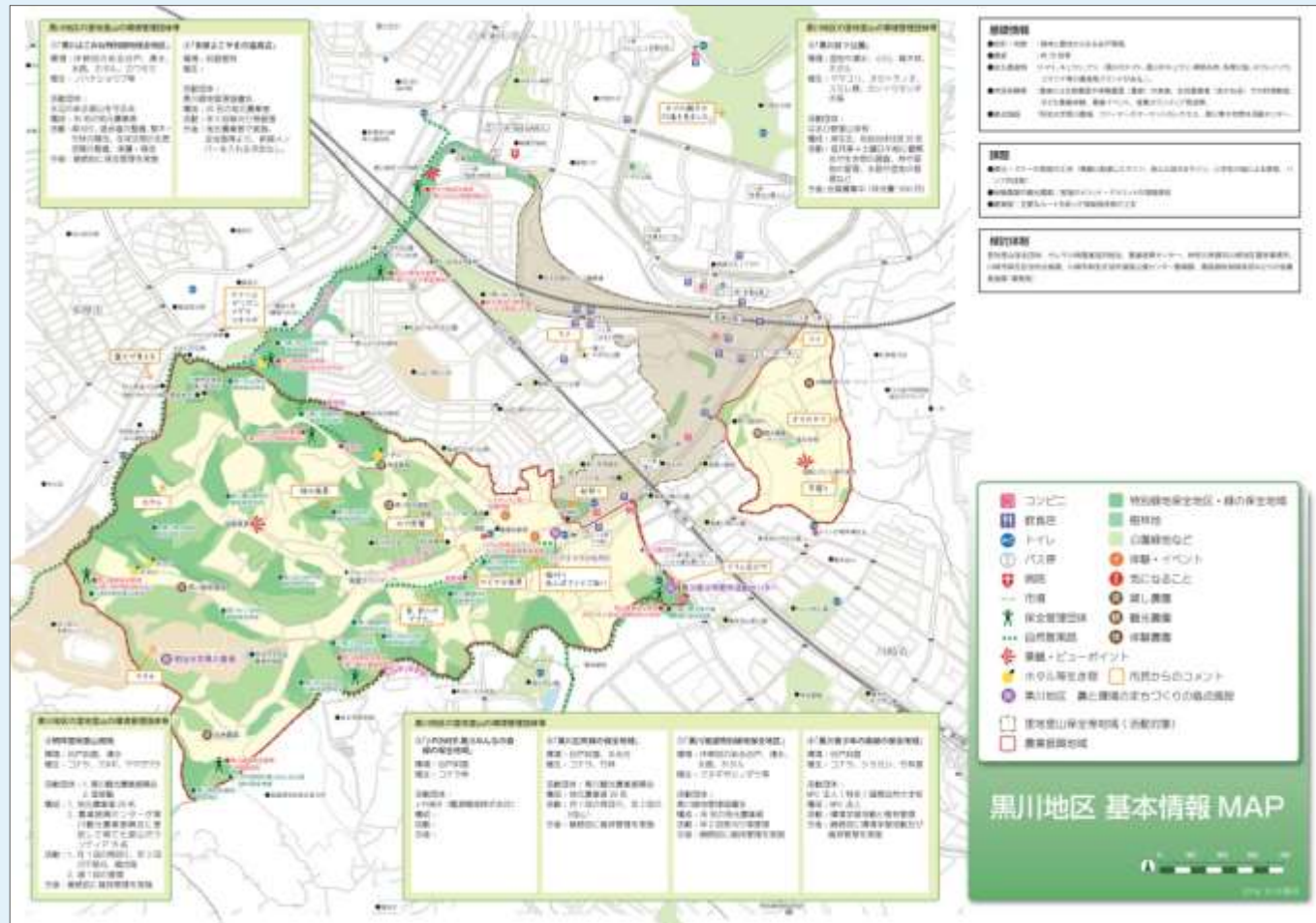
第1回 専門部会での
ワークショップ

地元町会、農業者への
ヒアリング

地元（農業者）の方の
ガイドにより現地視察
による情報の共有化

緑の保安全管理団体等の
把握

市民参加型
「黒川マップ作り」
の実施



（参考2）農と環境の情報ホームページ作成

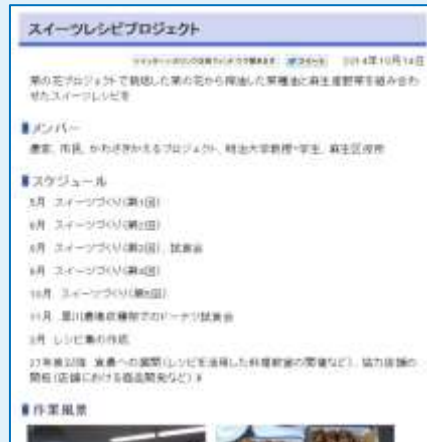
農と環境のまちづくりに関する取り組みや今後のイベント等を情報発信するホームページを作成しました。



ホームページ画面



イベント・ボランティア



スイーツレシピプロジェクト



菜の花プロジェクト

（参考3）地元説明会と意見交換会の実施－①

■ 概要

日 程：平成26年12月18日（木）、平成27年3月6日

出席者：セレサ川崎農業協同組合、生産組合黒川支部、黒川町会、
黒川営農団地管理組合、黒川観光農業振興会、
黒川はるひ野管理組合、明治大学、川崎市

■ 実施内容

- ・ 明治大学・川崎市黒川地域連携協議会の説明
（経過、活動内容、今後のスケジュール等）
- ・ 農産物等研究専門部会の説明
（経過、活動内容、今後のスケジュール等）
- ・ 今後の進行方法について検討
- ・ 意見交換

（参考3）地元説明会と意見交換会の実施－②

地元からの主な意見

地元への説明を積極的に行ってほしい。

草刈り等のボランティア活動については、協力したい。

明治大学に積極的に地元との関わりを持ってもらい、様々な取り組みについて連携していきたい。

協議会や専門部会へ、農業者や地域の方の参加を増やしてほしい。

菜の花プロジェクトは、もう少し範囲を広げて植えたほうがもっと良くなるのではないかな。

地元の人だけで話し合う場を作りたい。

もう少し継続して話し合いを続けてほしい。

（参考4） 明治大学黒川農場収穫祭でのまちづくりPR



パネル展示



市民参加型黒川マップづくり



スライドショー



市民アンケート

2-2. 「農と環境を活かしたまちづくり」基本計画

黒川地区 農と環境を活かしたまちづくり 基本計画 H27. 2



目的

川崎市麻生区黒川地区は、豊かな緑と農地が残された里地里山の面影を残す地域となっています。しかしながら、良好な環境を持続的に維持保全していくためには、農・緑・地域等に関して様々な課題があります。

そのため、本取り組みは、この地域が抱える課題を解決しながら活力ある地域にしていくため、農業者・地域住民・大学・行政等が連携し、農と環境を活かしたまちづくりを進めることを目的としています。

■黒川地区が抱える課題

農が抱える課題

- 都市農地の保全
- 農家・農業従事者の減少
- 地元農産物の魅力づくりや付加価値の向上
- 来訪者等のマナーの向上

緑が抱える課題

- 里地里山環境の持続的な保全・活用と担い手の確保
- 生物多様性の保全、環境学習情報の確保
- 農業施設と緑地保全施設の連携

地域が抱える課題

- 地域活性化と増加する来訪者への対応
- 農業者、地域住民、市民ボランティア、大学、周辺企業、市民等との積極的な連携

実施方針と目標

多様な担い手からなる「黒川地域連携協議会」を中心に、3つの方向性を持った「専門部会（農産物等研究専門部会・地域活性化検討専門部会・里地里山保全利活用専門部会）」を立上げ、各専門部会において様々な取り組みを試し、検証の上、継続的に実施していく取り組み内容を検討していきます。



取り組み事項

平成 27 年度は、農家の方や地元の方等へのご理解を進めていくとともに、地域の理解協力上で、様々な取り組みを試行していきます。そして取り組みの試行とその検証をふまえながら、今後の実施計画を作成につなげていきます。

H27 年度 取り組み事項

○基本的な進め方

- 農家の方や地元の方へのご理解と、多様な担い手への協力体制の強化
多様な担い手への取り組みを進める為、農家の方、地元住民、周辺企業、大学、緑等関わる市民団体等に、「黒川地区 農と環境を活かしたまちづくり」について、ご理解とご協力のため、説明や意見交換を進めていきます。
- 試行する取り組み内容の検討
黒川地区にとって、どのようなことを進めていくのがよいか、様々な立場の方の意見を取り入れながら、今年度試行する具体的な取り組み内容の検討を進めていきます。

●取り組みの試行と検証

検討した様々な取り組みを試行し、課題解決の糸口を見つけながら、継続的な実施に向けた検証等を行います。

○具体的な取り組み例

農産物等研究専門部会

- 農土作物の加工栽培
- 加工品等開発調査
- 農家と大学の連携強化
- 情報の配布

地域活性化検討専門部会

- 食農イベント、農業体験の実施
- ホームページコンテンツの充実
- 農の花プロジェクトの拡大
- 農産物を用いたスイーツシズプリ
- 和光大学との連携によるサイン設置

里地里山保全利活用専門部会

- 散策イベント実施
- 散策マップ作成
- 活動団体の P.R 支援
- マナーアップの検討

○明治大学黒川農場の収穫祭との連携した取り組みの実施（平成 27 年 11 月を想定）

取り組みの試行を効果的に実施するために、集客力のある収穫祭と連携し、ある程度の取り組みを集中させることで、実施効果を最大限に発揮させることを検討しています。

実施した実感を高める

集客、市民の反応、担い手の達成感

取り組みながら PR する

集客、市民の反応、マナーアップ

多様なチャレンジをする

新たな可能性、新規顧客、多様な連携

行的取り組みの実施と検証を繰り返しながら、
地域が一体となって、地域に根付く文化を育てていける
黒川地区 農と環境を生かしたまちづくり 実施計画の策定へ

2-3. 「農と環境を活かしたまちづくり」実施方針

| 実施方針 | 実施体制 | 具体的取り組み | |
|---------------------------|---|--------------------|---|
| | | 取り組み事項 | 実施内容(案) |
| 地元農産物の販売促進 と加工品の開発 | 農産物等研究専門部会 農畜産物、林産物及び加工品の栽培や販売などにおける課題を整理し、地域の活性化につながる農産物等の調査・研究を行う。 | ①新規農産物や郷土農産物栽培の推進 | ・継続的な研究と栽培の試行 ・栽培マニュアル、試食会等による農家への普及 |
| | | ②農産加工品の開発検討 | ・農産加工品の検討・試行、商品開発 ・ブランド化の検討や試食会の実施 |
| | | ③農産物等のイベント活用やPRの推進 | ・地域活性化検討専門部会との連携イベントの実施 ・黒川産の農産物や加工品のPR |
| 農や里地里山を体感する イベントの実施・PR | 地域活性化 検討専門部会 農や緑、環境を通じた地域の活性化や地産地消の推進につながるイベント等の実施や必要な施設等の検討を行う。 | ①農と里山の認知促進 | ・HPを活用した取り組み紹介とイベント等PR ・他イベントと連携したまちづくり活動のPR |
| | | ②農と里山の体感 | ・農や里山を体感できるイベントの実施 (食育イベント・グリーンツーリズム、農業体験、散策イベント) ・農と環境を学ぶ講座の開催 |
| | | ③地域資源の発見・創造 | ・地場産物を活用したレシピ研究 ・農産物等研究専門部会と連携した商品開発 |
| 里山の保全管理や活用 の推進 | 里地里山保全 利活用専門部会 多摩丘陵の里地里山の地域的価値を見出し、里地里山の保全、再生、活用を目指す。 | ①里地里山の体験・利活用 | ・里山体験イベントの実施 ・里山の利活用の検討 |
| | | ②里地里山の保全管理 | ・里山保全活動団体の活動支援 ・里山保全方策の検討 |
| | 三部会共通 | ①市民や地元等の意向の把握 | ・イベント等での市民アンケート等の実施 ・地元農家等へのヒアリングの実施 |
| | | ②大学・地域連携 | ・大学や地元農業者と各種取り組みでの連携推進 |
| | | ③連携イベントの開催 | ・地元農家、緑の活動団体、地元住民、大学等との連携 ・地元農家や明治大学収穫祭やJAセレサ農業祭り(柿生支店)等との連携 |

3. 平成26年度の試行的取り組み事項 (里地里山保全利活用専門部会)

- 3-1. 里地里山保全利活用専門部会の取り組み概要**
- 3-2. 平成26年度の試行的取り組み**
- 3-3. 市民アンケートの実施**

3-1. 里地里山保全利活用専門部会の取り組み概要

（1）里地里山保全利活用専門部会の目的

多摩丘陵の里地里山の地域的価値を見出し、保全・再生・活用を目指す。

（2）取り組み方針と平成26年度の具体化施策

| 取り組みの方向性 | 平成26年度の実施事項 |
|----------------------------|----------------------------------|
| 里地里山の認知促進 里地里山保全管理体験の推進 | （1）取り組みの前提として情報一元化 |
| 里地里山を活用した大学連携・地域コミュニティづくり | （2）里地里山の認知促進、保全管理体験、大学連携の一体的取り組み |

3-2. 平成26年度の試行的取り組み

(1) 取り組みの前提として情報一元化（※再掲）

多様な情報（地域の魅力、地域の活動、主な生産物、問題点、地域の催し等）を抽出し、
地図上に情報を集約化

流れ

1 第1回 専門部会
でのワークショップ

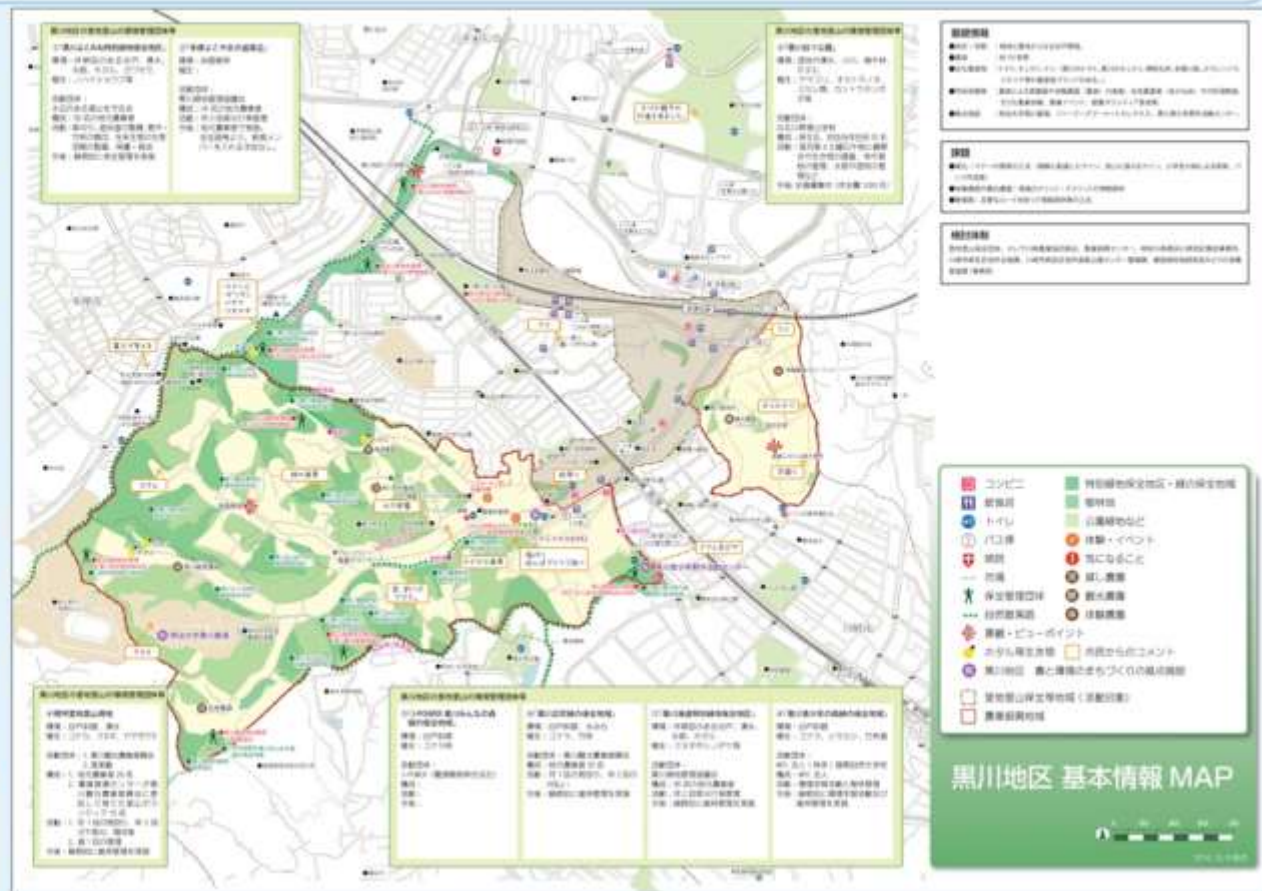
2 地元町会、農業者
へのヒアリング

3 地元(農業者)の方
のガイドにより現地視
察による情報の共有化

4 緑の保安全管理
団体等の把握

5 市民参加型「黒川
マップづくり」の実施

情報を集約し、
図面のとりまとめ



3-2. 平成26年度の試行的取り組み

（2）里地里山の認知促進、保全管理体験、大学連携の一体的取り組み

明治大学収穫祭連携企画「親子で楽しむ 里山体験ツアー」

目的：地域の活性化や交流を通し、持続的な里山環境の保全と活用を目指し、当専門部会の3つの方向性に関して、一体的に取り組む「体験型散策イベント」を開催。

内容：黒川地域を歩きながら、自然観察や里山の素材を使った遊びを通し、黒川の里山環境の魅力を伝え、人の生活とともにある里地里山の環境を身近なものとして肌で感じてもらう。

対象：黒川町内会及びはるひ野町内会の親子

実施日：11月8日 7組19名

当専門部会の
3つの方向性

方向性 1
里地里山
保全管理体験の推進

方向性 2
里地里山の認知促進

方向性 3
里地里山を活用した
大学連携・地域
コミュニティづくり

黒川の自然を知ろう
黒川谷ツ公園



黒川での活動を知ろう
黒川よこみね特別緑地保全地区



里山での工作
黒川海道特別緑地保全地区



3-3. 市民アンケートの実施

(1) 実施概要

農と環境を活かしたまちづくりに関するアンケート

■ 実施概要

日 程：平成26年11月8日（土）

実施場所：明治大学黒川農場 本館 1階 1-102会議室

回答数：121

【回答者の男女比】

男性：約35%、女性：約65%

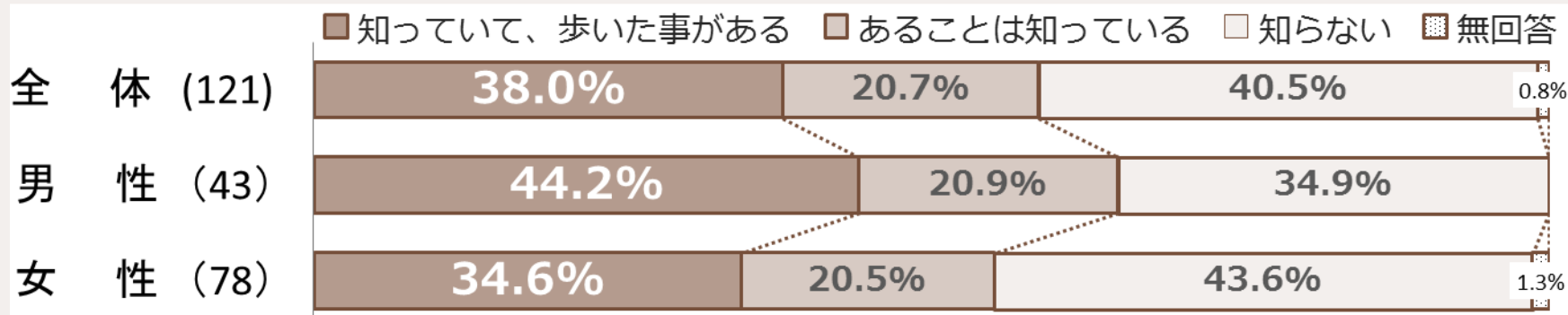
【回答者の年齢層】

60歳以上が約37%と最も多い。

39歳以下も約23%を占め、比較的多世代の方が回答。

（2）アンケート結果

【設問 1】 明治大学黒川農場の周辺には緑が連なる里地里山の風景とともに、散策できる道がありますが、ご存知ですか。（○はひとつ）



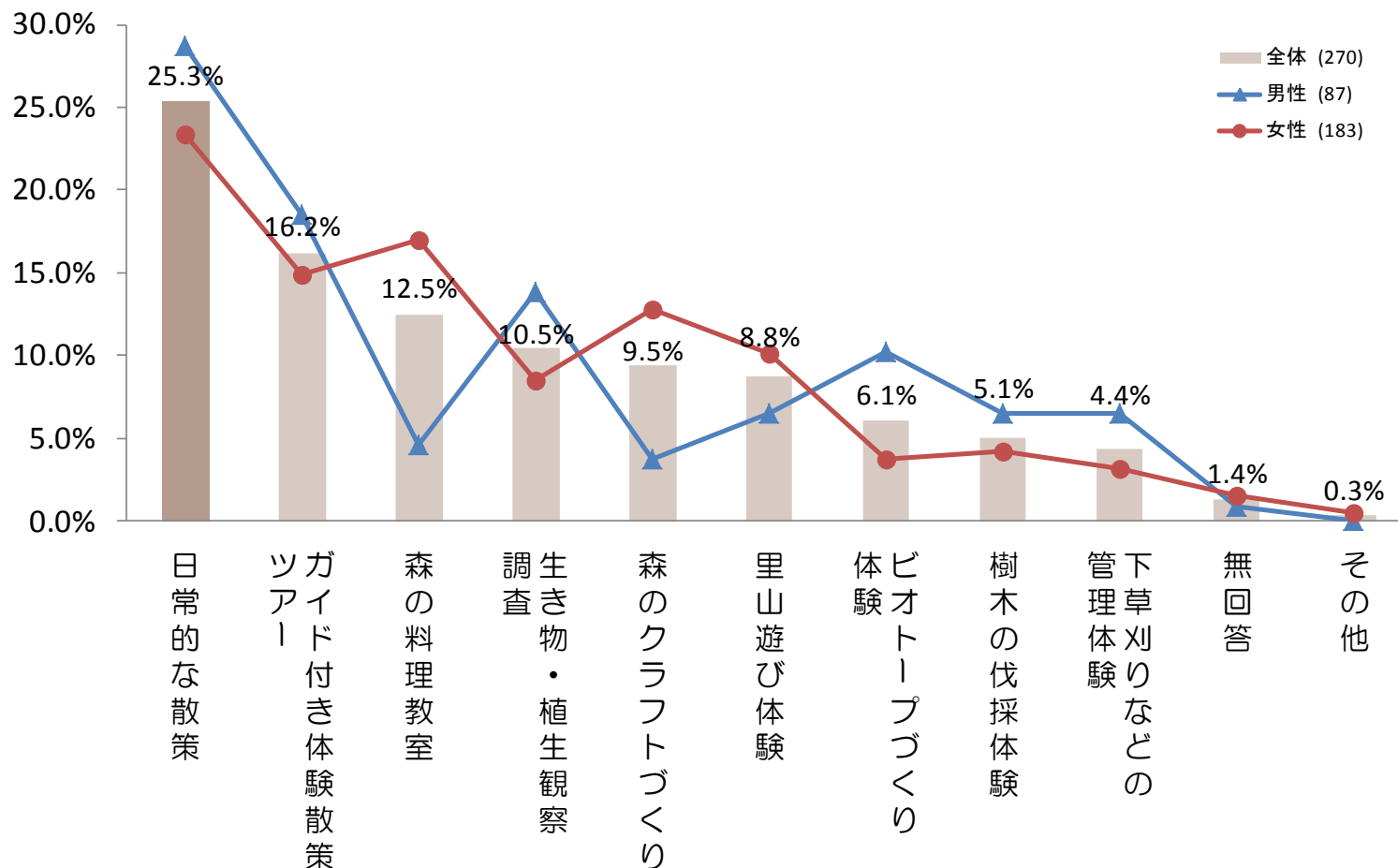
【設問 1-SQ】 実際に歩いてお気に入りの場所やルートがあれば、教えてください。

よこやまの道（9人）、よこみね緑地（3人）、ひだまり公園（3人）、
汁守神社（2人）、山桜（2人）

【その他】

セレスモス～いずみ浄苑（お墓）、海道緑地、黒川各戸周辺、恵泉の裏の旧山林、セレスモス→明大黒川農場→発電所、田んぼのとなりの道。など

【設問2】里山の保全や利活用に関する取り組みとして、
以下の中からやってみたいことはありますか。（○はいくつでも）



【設問3】黒川地区の里山を守り育て、有効に利活用していくために、気づいたことやアイデアがあれば教えてください。

全体では、「地産地消」が約5割を占め、次に「魅力ある農産物や加工品の開発・販売」が4割弱を占め、食に関する取り組みを重要とする傾向が伺える。男女別に見た場合、男性が「地産地消」「地域内外の人の交流」「積極的な情報発信」に対し、比較的高い傾向を示したことが特徴として伺える。

| カテゴリー | 回答結果（自由意見） |
|---------|---|
| 里山保全 | 里山守りは大切。里山を保全。山林は人の手が加わることで新たなる植物が現れる。これ以上変化しないようにして頂きたい。（田んぼが減って畑が増えてしまい様子が変わってしまいました。）里山を流れる川を作る。（整備する）緑地環境の保全。 |
| 啓発情報発信 | もっと情報を発信して宣伝して欲しい。もっとPRして欲しい。知らなかった情報が多いので、もっと知られるように広めて欲しい。黒川の里山についてPRして欲しい。小学生の環境教育。緑の大切さを伝えたい。 |
| イベント | 体験教室。木のキーホルダー作り。いなごやめだかを子どもたちが観察する。花見ツアー、蛍観賞など。草・ササ刈など緑地保全イベント。 |
| 安全安心 | スズメ蜂などの駆除 |
| マップ・サイン | 分かりやすい案内図。いろいろな植物の紹介や生態系保全のために必要な情報を載せる。 |
| その他 | 通行困難な場所・道が増加。車の通行を規制。若い人の参加促進。学校の遠足などに活用。 |

（3）アンケート結果から見た検討の方向性

アンケート結果から、今後検討が考えられる事項について以下にまとめた。

散策路の認知促進

- ・ 散策路のPRを行い、散策路の利用促進を図る。
- ・ 「散策ツアー」等で散策体験者を増やし、“里山の散策路”の認知促進を図る。

男性向けイベント

- ・ 里山管理体験へのニーズが比較的高いため参加を促すイベントや仕組み作りの検討。

女性向けイベント

- ・ 食を絡めた里山体験、親子等での参加が可能なクラフト作りや里山遊び体験の検討。

4. 実施計画の作成に向けた 今年度（H27）の取り組み（案）

- 4-1. 取り組みの基本的考え方
- 4-2. 今年度の主な取り組み（概要）
- 4-3. 今年度の主な取り組み（詳細）
- 4-4. 試行的取り組みの効果的な実施に向けて…

4-1. 取り組みの基本的考え方

農と環境を活かしたまちづくりを進めていくため、今年度は関係する様々な皆さんと課題や方向性を共有した上で、試行的取り組みを推進します。

● 農家の方や地元の方等へのご理解と、多様な担い手への協力体制の強化

多様な担い手への取り組みを進める為、農家の方、地元住民、周辺企業、大学、緑等関わる市民団体等に、「黒川地区 農と環境を活かしたまちづくり」について、ご理解とご協力のため、説明や意見交換を進めていきます。

● 多様な担い手の連携による試行的取り組みの推進

黒川地区にとって、どのようなことを進めていくのがよいか、ちょっとできそうなもの、やってみたいことなどを、まずはできる範囲で試してみながら、具体的な取り組み内容を決めていきます。

課題解決の糸口を見つけながら様々な取り組みを**試行**

● 試行による取り組みをくり返しながら

「農と環境を活かしたまちづくり」の実施計画につなげていく

4-2. 今年度の主な取り組み内容（概要）

| 取り組み事項 | 実施内容（案） |
|------------------|--|
| ①里地里山の 体験・利活用 | 1) 里山体験イベント |
| ②里地里山の 保全管理 | |
| その他 | 2) 今後の具体的な取り組みに関する意見交換 |
| | 3) サインや散策マップの検討（地域活性化検討専門部会） →連携協力 |
| | 4) 地域資源を活用したプロジェクトの検討・試行 （地域活性化検討専門部会） →連携協力 |

4-3. 今年度の主な取り組み内容（詳細）

1) 里山体験イベント

目的

黒川地域の里地里山の散策を通じて、自然観察や里山体験を行い、地域の魅力や里山保全に関するPRを行う。

実施内容

① 里山体験ツアー（11月実施予定）

- ・地元ガイドとともに、黒川地域を散策しながら、黒川地域の魅力について学び、体感する。



〈参考〉昨年度の内容

黒川谷ツ公園 自然観察

黒川よこみね 緑地保全活動の紹介
特別緑地保全地区

黒川海道 里山の材料を使った工作
特別緑地保全地区

今年度の内容（案）

黒川海道 里山の材料を使った工作
特別緑地保全地区

黒川広町 里山アート作品の鑑賞
特別緑地保全地区

黒川農場 農場見学

取り組みの担い手

農家、市民、市民団体、大学、川崎市

4-3. 今年度の主な取り組み内容（詳細）

2) 今後の具体的な取り組みに関する意見交換

目的

今後の里地里山の保全・利活用に向けて、各主体が連携して取り組める事項について、アイデア検討を行う。

実施内容

① 専門部会での意見交換

【アイデア例】

◆ 里山の保全活動体験

→竹の伐採や竹炭づくり、下草刈りや間伐などの体験。

◆ 子ども里山お絵かきプロジェクト

→子どもたちとアーティストがコラボレーションして、作品として作りあげていく。

◆ 里山キッズコーナー

→期間を限定して落ち葉のプール、木の滑り台など、子どもたちが自由に遊べる里山キッズコーナーを設置する。

◆ テーマ型「森の散策路」の設定

→期間を限定して散策路に名前を付け、その名前にちなんだ設えを準備し、いつもと違った感覚で楽しめる道をつくる。

たとえば…

取り組み
の担い手

農家、大学、川崎市

4-3. 今年度の主な取り組み内容（詳細）

地域活性化検討
専門部会と
連携

3)サインや散策マップの検討

目的

サインづくりや散策マップの検討を通じて、地域の課題を解決し、みんなが気持ちよく里地里山を楽しむ環境づくりを考える。

実施内容

①既存の散策マップやサインの把握

②地域の課題の確認

- ・ゴミ捨てや農地への立ち入りなどについてマナーを守ってほしい。
- ・むやみに歩くのではなく、散策ルートを絞ってほしい。
- ・マナーを守って歩いてほしい。

等

③より良い環境づくりに向けたサインの検討

④より良い環境づくりに向けた散策マップの検討

取り組み
の担い手

農家、大学、川崎市

4-3. 今年度の主な取り組み内容（詳細）

地域活性化検討
専門部会と
連携

4)地域資源を活用したプロジェクトの検討・試行

目的

地元の大学や小中学校、農家などが連携して、黒川地域の地域資源の活用や新たな魅力づけにより、若い世代の来訪など、新たな黒川のファンづくりを目指すプロジェクト。

実施内容

①地域資源を活用した連携プロジェクト

②プロジェクトの実施

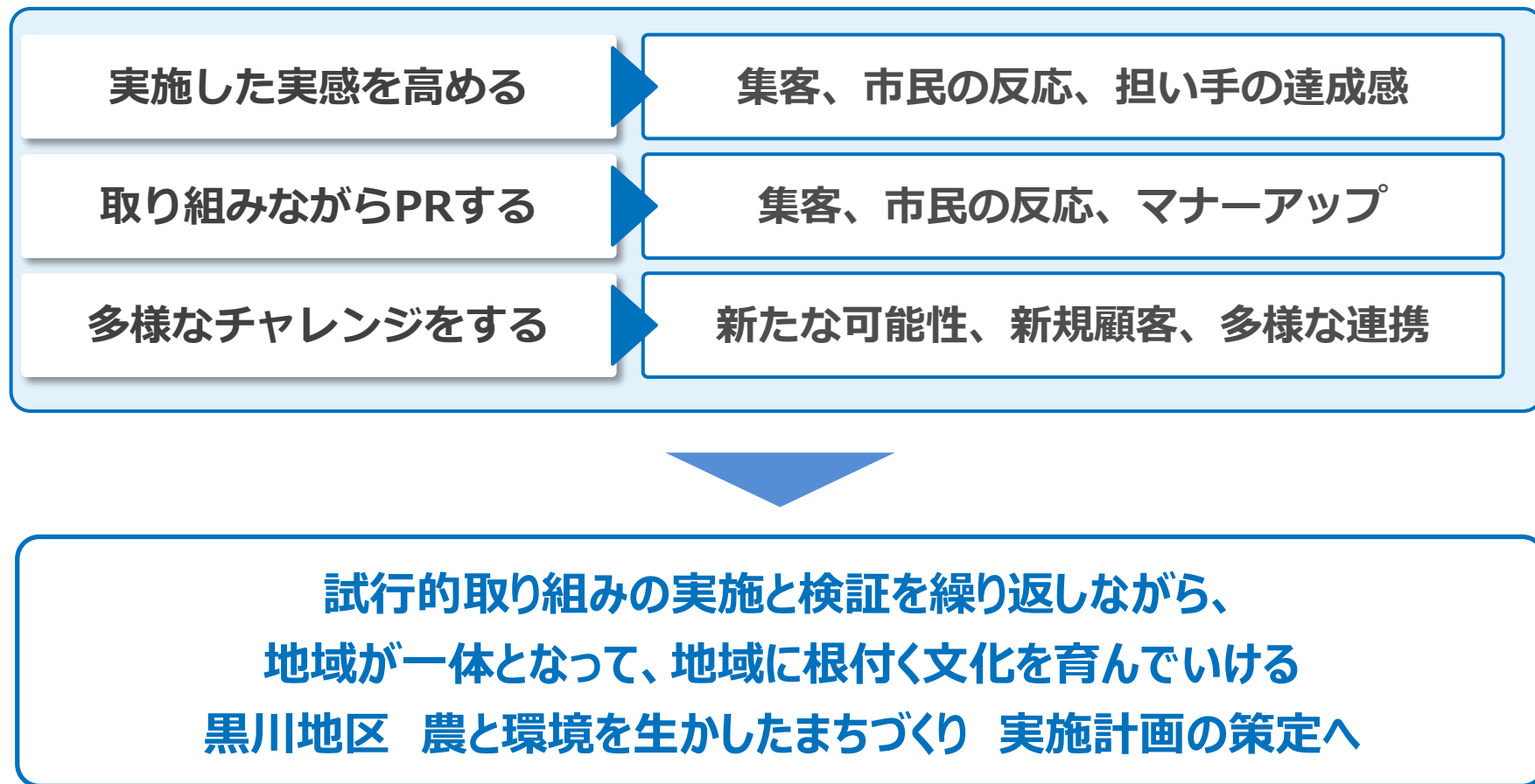
例1：里山アートプロジェクトの試行

→里山環境を活用したアートにより新たな魅力発見を行う。

例2：菜の花を活用した黒川地域の魅力向上につなげる
里山景観づくりの検討取り組み
の担い手

農家、小中学校、大学、川崎市

4-4. 試行的取り組みの効果的な実施に向けて・・・



5. 今後の予定

5-1. 今年度（H27）の取り組みの流れ（案）

5-2. 中長期的なスケジュール

5-1. 今年度（H27）の取り組みの流れ（案）

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|--------------------------|---|---|---|---|----|---|----|-----------|--------------|---|---|---|
| 1) 里山体験イベント | | | | | | | | イベント ● | | | | |
| 2) 今後の具体的な取り組みに関する意見交換 | | | | | 検討 | | | | 中間とりまとめ ● | | | |
| 3) サインや散策マップの検討 | | | | | 検討 | | | 試行 ● | | | | |
| 4) 地域資源を活用したプロジェクトの検討・試行 | | | | | 検討 | | | 試行 ● | 中間とりまとめ ● | | | |
| 意見交換会 | | ① | | | ② | | | | ③ | | | |
| 専門部会 | | | | ① | | ② | | | ③ | | | |
| 協議会 | | | | | ① | | ② | | | ③ | | |

※収穫祭：11/7
農業まつり：11/14（予定）

5-2. 中長期的スケジュール（案）

